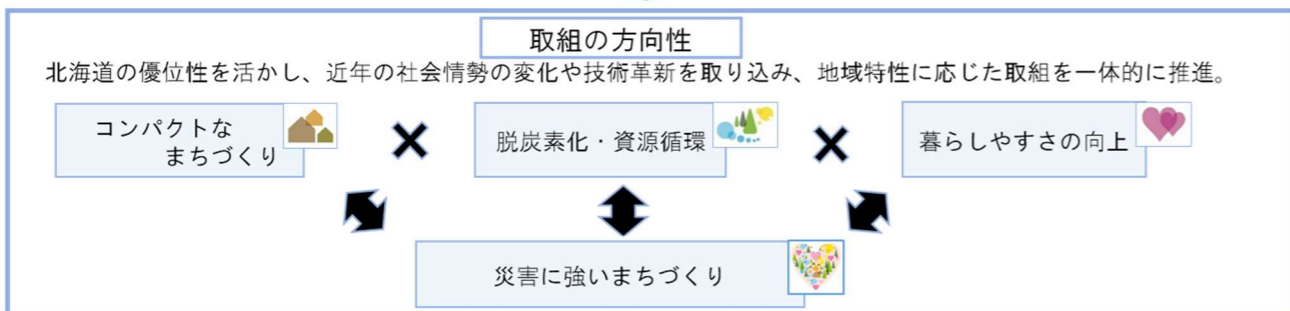
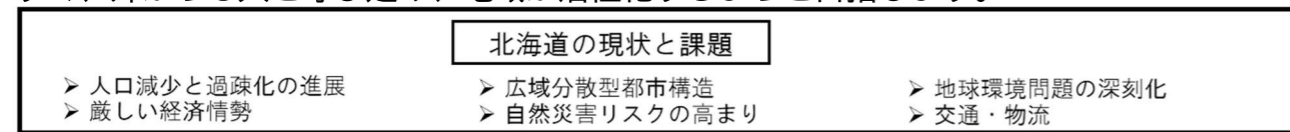




目指す姿と方向性

北海道の優位性を活かし、近年の社会情勢をうまく取り込みながら、人口減少下においても、人々が安心して暮らし続けられるだけでなく、地域資源が活かされ、魅力的で暮らしやすく、外からも人を呼び込み、地域が活性化するまちを目指します。



目指す姿

誰もが心豊かに住み続けることができ、安全・安心で暮らしやすく、資源・エネルギー循環が進んだ効率的なまち



取組の視点と効果

「北の住みいるタウン」の実現に向け、北海道の優位性や社会情勢の変化、自然災害の激甚化・頻発化を踏まえ、「コンパクトなまちづくり」「脱炭素化・資源循環」「暮らしやすさの向上」という3つの方向性に沿った取り組みを掛け合わせ、「災害に強いまちづくり」を意識しながら、地域の多様な主体が連携・協力して進めていくことにより、地域が抱える多岐にわたる課題の解決につながる相乗効果・波及効果を生み出し、将来にわたって持続可能なまちづくりを進めていきます。



公共施設の機能集約と新機能を付加したまちなか拠点。官民連携の事業手法で整備（室蘭市）



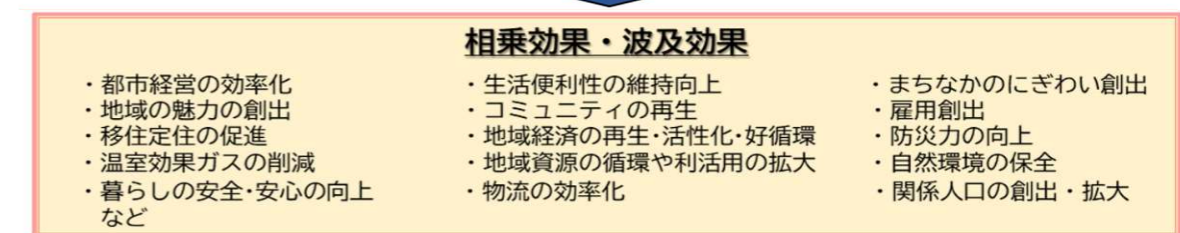
廃棄物由来のバイオガス活用（稚内市）



楽しみながら防災を学ぶ「サバイバルフェスティバル」の開催（鹿追町）



路線バス内での移動販売を行う「マルシェバス」の実証実験（帯広市）



《将来像》 多岐にわたる地域課題の解決 将来にわたって持続可能なまちづくり